

令和4年春期 能見台地区推進連絡会

1 日時

令和4年3月26日（土） 16:00～16:50

2 場所

横浜市能見台地域ケアプラザ

3 参加者

（地域側）自治会等地域団体関係 26名

（支援チーム、その他行政側）

区役所 6名

区社会福祉協議会、地域ケアプラザ 3名

計 35名

4 意見交換要旨

(1) 第4期能見台地区別計画策定について

(2) 目標の5本の柱ごとにグループに分かれて、第4期能見台地区別計画に基づく2022年度以降の事業について取組みを進めていくためのアイデアについて意見交換を実施した。

ア 笑顔あふれる街

○活動拠点やサロン

多世代が交流できる場所・拠点をつくる。場の創出を考えていく。

意見として、京急電鉄グループの事務所の跡地、学校の空き教室、京急ストアの広場等が活用できるのではないかな。

温浴施設があれば、また空き教室や京急ストアの広場を活用したイベントがあれば、交流が生まれるのではないかな。

○イベントの開催

地区フェスタや大人フェスタは開催したい。毎月開催することで定着化を図ったらどうか。

イ 地域情報が共有できる街

○情報発信の手法

情報発信をすること方法として、検討した。広報誌「ほのぼの」等の紙媒体で

の広報は継続し、SNS では能見台連合の Instagram (インスタグラム) がある。共有したい対象や情報、状況によって使い分ける必要があるのではないかな。

○ 連合としてできるイベント

単位町内会で開催できないイベントが増えてきている。子ども以外の世代が参加できる子どもを対象としたイベントを開催したらどうか。例えば、花を植えるイベントは、いろんな世代が交流できるのではないかな。

ウ 協力し合える街

○ ビジョンを明確にする

人と人との関わりを増やすために、参加する人を増やす楽しいイベントにする必要がある。他の連合や町内会の活動を参考にしてもいいのではないかな。

○ ターゲットの明確化

中学3年生、高校3年生は協力を得やすいのではないかな。中学校では家庭科の授業で「地域」という授業あり。学校と連携し、「ちょいボラ」のメンバーになってくれるのではないかな。

○ 居場所の創出

地域の人が子どもたちに勉強を教える学習支援する寺子屋のようなものをつくり、人が来る場所をつくる。

エ 助け合える街

○ 花がいつも咲いている街づくり「みらいの街プラン」活動の推進

内容としては、花マップを作成。街に花を植え、町内毎に春夏秋冬にいつも花が咲いているように活動する。またフォトコンテストを開催して、SNS 上で発表する。

○ 多世代が参加できるチーム

プロジェクトチームを立ち上げる。メンバーは小学生、中学生、ハマロード・サポーター、公園愛護会で構成。小中学生が会議に参加してもらうことが大切である。

○ 活動の目的

防犯対策になる。また子どもの時から地域活動に参加する機会になるのではないかな。

オ 安心して暮らせる街

○ 防犯・防災の取り組みの継続

- ・ 今まで取り組んでいたことは継続していく。
- ・ 防犯パトロールは、行政に協力を求めていくのと併せ、各町内会が連携して行うことで、犯罪抑止効果もあがるのではないか。
- ・ また、認知症の人の徘徊の捜索や犯罪の抑止に効果が期待できる防犯カメラについて、連合として設置を検討するのがよいのでは。行政や警察に設置については、協力を求めていく。

○ 地域防災拠点の強化・情報共有

- ・ 地域防災拠点の受入キャパには限界があるが、集合住宅の住民の多くは、自宅の被害がなかったとしても、必ず地域防災拠点に避難しなければならないと思っている人が多いことがわかった。また、拠点の備蓄食料などは、拠点に避難した住民だけの物と勘違いしている人が多い。
そうではないことを啓発することが必要だ。
- ・ 市職員が参加しているが、自助共助であり、自分たちの地域は自分たちで守る、地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合うことが必要である。

以下、余白